



命に関わる病気から子どもたちを守るワクチンの価格

「新しいワクチンを国家予防接種プログラムに加えることは、複数の負債を抱えるようなもの」 — ケニア保健省職員

毎年、予防接種によって 250 万人の子どもたちが命に関わる病気から守られている。新しいワクチンの予防接種でさらに多くの命が救われるはずだが、ワクチンの高い価格がそれを妨げている。

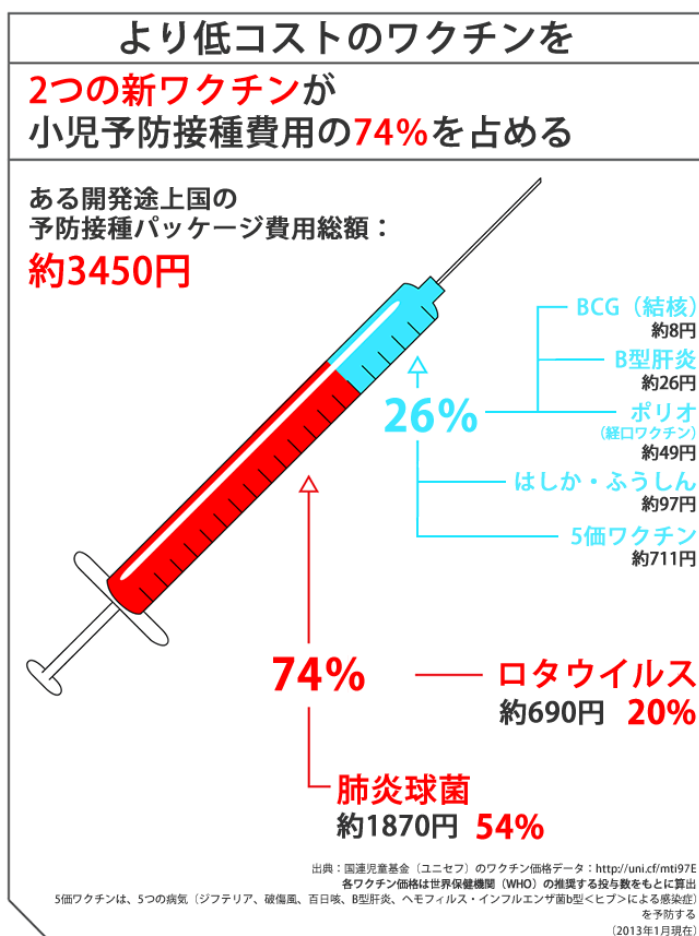
価格が上昇し、各国が支払いを迫られることに

ワクチンの価格が高い場合、購入できる数が減り、予防接種を受けられる子どもの数が減る。10 年前、子どもの命を守るための主な推奨ワクチンの価格は 1 人当たり 1.5 米ドル以下であったが、今日では、一連の推奨ワクチン・パッケージの価格は 40 ドルにまで上昇している。その理由は、予防接種プログラムに加えられるワクチンが増えたことだけでなく、新ワクチンの多くが従来のワクチンに比べ価格が高いことが挙げられる。

ロタウイルスと肺炎球菌による病気を防ぐための 2 種類のワクチンだけを見ても、子ども 1 人当たりにかかるワクチンの総額の 4 分の 3 近くを占めている。

新ワクチンが基本パッケージに加えられることは好ましいことである

が、ワクチンの価格が高いという問題は、より多くの子どもたちに予防接種を提供するための継続





した努力を妨げるものである。開発途上国に暮らす子どもたちのほとんどは、現在 GAVI アライアンス(ワクチンと予防接種のための世界同盟)から受けている大規模な財政援助なしには、予防接種の恩恵を受けられない。

GAVI アライアンスは 10 年以上前に設立された官民連携の組織であり、途上国で新ワクチンの導入を財政援助し、基本的な予防接種活動を支援することを目的としている。GAVI アライアンスは途上国の予防接種プログラムへ 79 億ドル以上の支援を行っている。

途上国は、その国民所得が一定のレベル以下である場合に GAVI アライアンスの支援対象となる。国民 1 人当たりの所得が 1520ドルを超えると、GAVI アライアンスの支援から「卒業」となる。そうなれば、2 つの点で負担がのしかかる。ひとつは GAVI アライアンスからの支援が受けられなくなること、そして同時に、GAVI アライアンスが交渉した価格で新ワクチンを購入できないことである。

新ワクチンへの援助がなくなるとどうなるのか？

2015 年には、現在の GAVI アライアンスの支援対象国の 4 分の 1 弱を占める 16 カ国が支援から卒業する。GAVI アライアンスの支援を卒業すると、その国々は、年々段階的に支払いを増やすよう求められる。これは、GAVI アライアンスの支援を段階的に外れていくことで、支援終了の経済的な打撃を和らげるためである。しかし、段階的であろうとなかろうと、最終的に GAVI アライアンスの資金援助がなくなることは多くの国にとって重大な経済的課題となり、支払いが困難となる。

ワクチンの輸送と保管に大きな追加費用がかかる

多くのワクチンは、その効果を保つために低温に保たなければならない。つまり、冷蔵庫や保冷庫など「コールドチェーン」を整備して厳密な温度管理を行う必要があり、かなり高額な費用がかかる。電力供給が不安定で日中の気温が摂氏 45 度にも上がるような地域でコールドチェーンによってワクチンを冷温に保つことは、多くの地域住民が暮らす遠隔地では特に、物資調達面で大変な努力と資源が必要となる。


エチオピアでは 2007 年、子どもに多い 5 つの病気を予防する 5 価ワクチンを国家予防接種プログラムへ導入した際、コールドチェーンに高額の付帯費用がかかった。たった 1 種類のワクチンを導入するためだけに、エチオピアは自国のワクチン冷温保存能力を 2 倍以上に引き上げなければならなかったのだ。



ホンジュラスは、2009年の平均的な所得が国民1人当たりたった1800ドルであったが、2015年にはGAVIアライアンスを卒業することになっている。そうすると、ロタウイルスワクチンと肺炎球菌ワクチンという2種類の新ワクチンに支払う子ども1人当たりの価格は、現在ホンジュラスが支払っている1.43ドルから15.5ドルへと上昇する。この2種類のワクチンの購入費用だけで、ホンジュラスは毎年300万ドルもの支払いをすることになる。


より低コストのワクチンを

ホンジュラスは2015年にGAVIアライアンスの支援を受けなくなると、2種類のワクチン代だけで支払い額が**約1000%**上昇する



2011年にホンジュラスが肺炎球菌ワクチンとロタウイルスワクチンに支払った金額

1.43ドル



2015年にホンジュラスが肺炎球菌ワクチンとロタウイルスワクチンに支払う金額

15.5ドル

約1000%も支払い額が上昇

2015年には、16カ国がGAVIアライアンスの支援対象限界値である1人あたりの国民総所得（GNI）額（現在は1520ドル）を超え、抛出国からの援助を受けられなくなる。
※表示価格は米ドル

ワクチンの価格はより安くできないのか？

今日の経済状況では、新ワクチンの高い価格をまかなえるような国際的な抛出の増加は見込めない。より多くの子どもたちが予防接種を受けられるようにするためには、ワクチンの価格が減少し、より求めやすい価格になる必要がある。

より良い交渉を目指す必要性

ワクチンに高すぎる支払いをしている国々もある。例えば南アフリカは、多くのワクチンで他の途上国よりも高い価格を支払っている。（以下の表を参照）

南アフリカがこうした高い価格を支払うことになっている要因のひとつが、価格交渉を個別に行わなければならないためである。プール方式でワクチンを購入してより大きな市場需要を作り出せば、製薬企業に対して大きな影響力を持つことができる。例えば汎米保健機構（PAHO）の回転資金制度や国連児童基金（UNICEF）の物資供給部などは、その莫大な市場需要を通じて製薬企業



に最大の影響力を働かせることができる。

2011年の価格

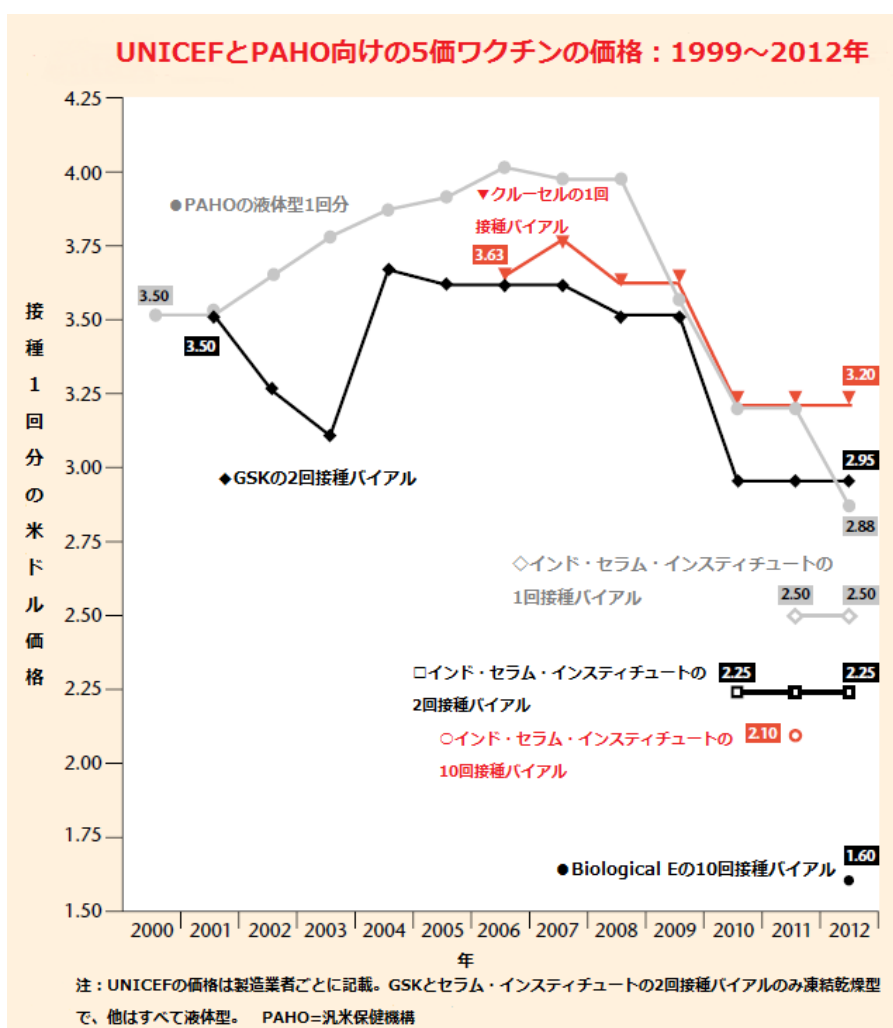
ワクチン	南アフリカ	PAHO	GAVI/UNICEF
5価ワクチン	9.35ドル*	2.95ドル	1.75ドル
ロタウイルスワクチン	7.75ドル	7.5ドル	2.5ドル
肺炎球菌ワクチン	26ドル	14.85ドル	7ドル

*南アフリカの5価ワクチンは、ジフテリア、破傷風、無細胞百日咳、ヘモフィリス・インフルエンザ b 型菌(Hib)、不活化ポリオの、DTaP-Hib-IPVである。GAVI アライアンスと UNICEF の5価ワクチンは、ジフテリア、破傷風、全細胞性百日咳、ヘモフィリス・インフルエンザ b 型菌(Hib)、B 型肝炎の、DTP-Hib-HepB である。南アフリカは GAVI アライアンスの支援対象国ではない。価格情報は MSF ワクチン報告書「適切な予防接種—ニーズに応じたワクチンを求めやすい価格で」(2012年5月)を参照

製造費の安い競合企業がワクチン価格を引き下げる

インドのような国で、世界保健機関(WHO)から品質を認可されたワクチンの供給企業の数が増えることで、既存の多国籍企業が提示する高い価格を引き下げることができる。ワクチンの製造にかかるすべての費用のうち、設備にかかる費用が60%を占めていると推計されるが、例えばインドのような国では、ヨーロッパや米国に比べて設備費も人件費も著しく低い。つまり、途上国のワクチン製造企業は価格を大幅に安く抑えることができる。

例えば、ファイザー社とグラクソ・スミスクライン社が提示する肺炎球菌ワクチンの最安値は、GAVI アライア





ンスのみに適用されている、1回の接種あたり7ドルという価格であり、3回の接種を完了すると子ども1人あたり21ドルとなる。一方で、ある競合企業は同じワクチンの3回接種分を6ドル程度の低価格で製造できる予測を示している。

製造コストの低い企業による価格競争の効果を示す別の例は、5価ワクチンにも見られる。グラクソ・スミスクライン社とクルーセル社は、複数のインドの製造企業による安価な製品が市場に出た際、自社の5価ワクチンの価格を15%引き下げる発表をした。そしてその価格は引き続き下がり続けると予測されている。

透明性の向上も、ワクチン価格の引き下げにつながる

ワクチン市場では、製造企業は特に情報交換を望んでいないため、ワクチンの価格は最近までほとんど公表されることがなかった。つまり、購入する国は、基準価格についての情報が得られないまま価格交渉をしなければならなかった。

しかし2011年、国境なき医師団(MSF)からの支持を受け、UNICEFの物資供給部は過去10年に支払ったワクチンの価格データを公表し、どのワクチン製品がいくらで購入されたかはっきりとわかるようになった。ワクチン購入国は価格の現状を知ることができ、例えば、多国籍企業のクルーセル社の5価ワクチンがインドのセラム・インスティテュートの5価ワクチンより40%も高額になっていることがわかった。

ワクチンを安価に供給できるような形の製品開発が、さらなる解決策となる

2010年、アフリカの髄膜炎ベルトで新しい髄膜炎予防ワクチン「MenAfriVac」が発売された。MenAfriVacは、この地域で特に有病率の高いA型髄膜炎の予防に特化して作られたワクチンであり、大流行を防ぐことでこれまで多くの命を救ってきた。このワクチンがより広く供給されることで、さらに多くの命が救われると予測される。MenAfriVacの価格は1回の接種あたりわずか0.5ドルである。

新ワクチンをそれほど安価に製造できたのはなぜか？ MenAfriVacは、開発の当初から使用対象国に暮らす人びとのニーズと優先事項を取り入れた、革新的なモデルで開発されたワクチンであった。低い人件費と資本を持つインドのセラム・インスティテュートによる技術移転、製品を簡易に、適合する血清型を対象とするなど、このプロジェクトは、新ワクチンが必ずしも高額にはならないことを証明した。

その意味で、MenAfriVacの開発モデルは、ワクチンの事前買取制度(AMC)とは明らかに対照的である。AMCは、GAVIアライアンスが途上国における肺炎球菌ワクチンの普及を加速させるために導入した資金拠出モデルである。GAVIアライアンスからの報奨金と引き換えに、ファイザ



一社やグラクソ・スミスクライン社は先進国で課している価格よりもはるかに低い価格でワクチンを販売する。しかし GAVI アライアンスは、この 2 社が途上国の大規模な需要に対応できるような製造能力確保のために投資するよう説得するため、かなり寛大な条項を設けなければならなかった。2 社は GAVI アライアンスの資金拠出国が提供する拠出金のうち 15 億ドルを報奨金として分配され、この報奨金を使い終われば、低コストの製造企業が課す価格よりも高い価格を課すことができる。AMC の開発モデルは、高コストの製造企業に依存してはワクチン価格の引き下げに限界があり、低コストの製造企業による価格競争の推進に投資するほうが、より長期的な効果をもたらされることを示している。

求められる取り組みは？

- ワクチン関連の国際社会は、高額なワクチンの価格引き下げをワクチンの普及向上のための広域な戦略の一部として、より多くの子どもたちを守るような取り組みを進めるべきである
- GAVI アライアンス、UNICEF やその他ワクチン調達の関係者は、その購買力を利用してさらなる価格引き下げに取り組むべきである
- 安価なワクチン製品の開発のため、技術移転などを通じてより多くの低コスト製造企業がワクチン市場に参入するよう推奨されるべきである
- ワクチン購入国は、購買力を高めるためにプール方式の発注を行うべきである
- UNICEF やその他の関係者は引き続きワクチン価格の透明性向上に努めるべきである
- GAVI アライアンスの購入価格が、GAVI アライアンスの支援対象国で活動する非政府組織に拡大して適用されるべきである

MSF と予防接種

MSF は、主にはしか、髄膜炎、ジフテリア、百日咳、黄熱病などの流行に対応するため、毎年 1000 万人以上の人びとに予防接種を提供している。さらに、母子保健プログラムを展開している地域で定期予防接種活動も援助している。